

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

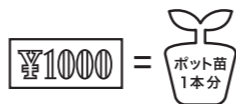
宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。
<https://jla-takarakuji.or.jp/>



皆様のご寄付で森をつくっています

1000円で1本のポット苗を植えることができます。
 一口1000円からのご支援をよろしくお願い申し上げます。



●口座振込みで寄付する

寄付金受領書発行のため、銀行振込にてご寄付の方は、メールかお電話で住所、お名前、電話番号をお知らせください。

口座名:公益財団法人鎮守の森のプロジェクト
 三井住友銀行:本店営業部【普通】2502292
 三菱UFJ銀行:新丸の内支店【普通】3150627
 みずほ銀行:八重洲口支店【普通】2440176
 郵便局:00120-4-548300
 *青色の払込票をご使用ください。

●オンラインで寄付する

鎮守の森のプロジェクト公式ホームページからお申込みください。
www.morinoproject.com/donation
 ご利用可能なクレジットカード



●相続財産からのご寄付

相続または遺贈により現金・預貯金を取得された方が、相続税の申告期限内（相続開始日の翌日から10ヶ月以内）に、その現金・預貯金を「公益財団法人鎮守の森のプロジェクト」へご寄付いただくと、ご寄付いただいた財産は相続税の課税対象となりません。

●香典からの寄付

お香典のお返しに代え、社会貢献のための寄付をしたいとお考えの場合は、いのちを守る森づくりに活用することができます。お香典返しに代えた寄付のお礼状は、当財団にてご用意しております。



鎮守の森のプロジェクト

公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト
 東京都港区虎ノ門3-7-2 2階/MAIL:info@morinoproject.com
 TEL:03-6432-0085(平日10時~17時)



www.morinoproject.com

公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト 2024年次報告書 / 令和6年12月発行



鎮守の森のプロジェクト

2024年次報告書

[令和5年12月 - 令和6年11月]

濱口梧陵に学ぶ1000年安心の森づくり

2015年国連で制定された「世界津波の日」が、安政元年(1854年11月5日)の安政南海地震で発生した津波に襲われた村人を、田の稲むらに火を放ち高台の寺社に避難させ多くの命を救った濱口梧陵の逸話にちなんだ日であることを知っていますか。

濱口梧陵の素晴らしい点は迅速な避難に貢献したことばかりではありません。将来、再び同様の災害が起こるのではないかと「想像」し、私財を投じて広村堤防を「創造」したことです。この堤防のおかげで昭和21年(1946年12月21日)の昭和南海地震による津波を防ぎ被害を免れることが出来たのです。広村堤防を造る事業を進める為に必要不可欠な要素は「想像力」と「創造力」だったと思います。

目の前の現実から将来の姿が想像できますか？ 濱口梧陵のように100年後に襲うかも知れない災害を想像できますか？ 将来の災害に備える創造力を発揮できますか。津波には防潮堤、火災には広域避難場所、水害には・・・、山崩れには・・・など、今直ぐにでも造らなければならないものが沢山あります。

私たちは宮城県岩沼市で森の防潮堤「千年希望の丘」を造ってきました。2013年に植えられた小さなポット苗が、現在では8m以上に成長し、少しずつ森になっていく姿が見られます。いわば令和の広村堤防です。

『天災は忘れたころにやってくる』とは物理学者 寺田寅彦の言葉ですが、私たちは何時も「想像力」と「創造力」をもって「災害からいのちを守る森」づくりを進めています。

皆さまのなお一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。



和歌山県広川町にある広村堤防(グリーンベルト)

公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト

理事長 細川 護 照

自然環境の機能を活用したグリーンインフラを通じ、自然資本の保全にも寄与します。「SDGs」に合致した取り組みです。



NEWS 来年はついに和歌山県で植樹祭予定!

未来の世代へ育む「百世の安堵」 広川町での森の防潮堤づくり

和歌山県広川町は、幾度も津波被害から立ち上がり、自然と共に生きる防災意識を受け継いできた歴史がある町です。この町では、幼少期から防災教育に力を入れ、先人の知恵と勇気が未来に語り継がれています。江戸時代の「稲むらの火」の物語を通じて、防災の精神が親から子、子から孫へと伝わり、この町の人々の心に深く根付いています。この度、鎮守の森のプロジェクトでは、南海トラフ地震への備えとして、広川町で森の防潮堤を造ることになりました。地域子どもたちや住民の皆さま、また全国から集まるボランティアの皆さまと植樹する予定です。この森もまた、未来の世代への「百世の安堵」をもたらし、人々の安全と地域の繁栄を支える象徴となることを願っております。詳細はまた来年にお知らせいたします。

「稲むらの火」の物語について

安政元年(1854年)の大地震と津波の際、広川町の濱口梧陵が収穫後の稲むらに火を放ち、住民を高台に避難させて多くの命を救った実話です。津波後、梧陵は私財を投じて広村堤防を築き、村を守るための防災意識を広めました。この勇気ある行動は「生ける神」として称えられ、現在も防災の象徴として語り継がれています。



濱口梧陵



広村堤防の様子。「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～は、日本遺産に認定されています。

稲むらの火祭り

毎年、広川町では安政の津波が起きた記憶を辿る「稲むらの火祭り」という行事が行われています。夕刻になると、町の人々が松明を持って町役場に集まります。一本一本の松明に火が灯されると、行列は高台の広八幡神社を目指して歩き始めます。広八幡神社は、津波から多くの人が避難した場所なのです。



写真提供: 広川町教育委員会 / 引用: 『百世の安堵』広川町日本遺産推進協議会、『稲むらの火の館』WEBサイトより

Attention 防災 & 環境教育のご紹介

宮城県柴田農林高校川崎校 & 川崎町立川崎第二小学校

防災や環境教育の一環として、高校生16名と小学生8名が参加し、年齢の異なる学生同士が連携しながら100本の木を植えました。この毎年恒例のプログラムでは、地域社会への参加と津波防災や環境意識の重要性を伝え、地元の生物多様性を支える持続可能な森づくりを実践的に学んでいただきます。

当日は、小学生たちの元気いっぱいの姿に高校生が少し戸惑う場面もありましたが、高校生が上手にリードしながら作業を進めていきました。この森づくりは、環境を学ぶだけでなく、参加者同士の絆を深め、協力する大切さを実感できる場となっています。

当財団では、このような教育プログラムへの支援と推進にも積極的に取り組んでおります。



MORINO PROJECT

大分県日出町植樹祭

森林環境税を活用した初の取り組み

令和元年から導入された「森林環境税」は、間伐や人材育成など森林整備を目的として活用されています。大分県日出町で行われた植樹祭は、この制度を利用した初の海岸防災の森づくりであり、当財団としても九州地方で初めての植樹祭となりました。東北や関東、九州全域から340名が参加し、2646本の苗木が植えられました。この植樹地は、津波浸水想定が2〜3メートルとされる別府湾沿いに位置しており、温暖な気候の中でヤマザクラが2メートル以上に成長するなど、順調に育っています。今後、東日本大震災の被災地や南海トラフ地震に備えるため、森林環境税を活用した森づくりの全国展開が期待されています。



九州初

海に面したグラウンド外周の緑地帯は疎林化が進んでいたため、既存の樹木の間の空間を活用し、防災の森を計画しました。

植樹祭・育樹祭(草抜き)

- 2024年3月23日[植樹祭]2,646本/大分県日出町・ふるさとのいのちを守る森づくり
- 2024年6月 9日[植樹祭]20,000本/福島県南相馬市・第12回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭
- 2024年6月22日[植樹祭&育樹祭]200本/宮城県岩沼市藤曾根・相野釜
- 2024年7月13日[植樹祭&育樹祭]500本/福島県南相馬市・第3回宮脇記念植樹祭
- 2024年8月24日[育樹祭]岩手県山田町
- 2024年10月14日[植樹祭]東京都板橋区
- 2024年11月2日[育樹祭]大分県日出町(悪天候のためスタッフのみで活動)

種子採種ツアー

2024年10月26日/宮城県仙台市近郊(大崎八幡宮、志波彦神社鹽竈神社)

鎮守の森の教室(ポット苗講習会)

2023年11月26日/千葉県君津市圃場

植樹地域の土壌や気候に適した在来種を使用することで、自然災害から人々の暮らしを守るとともに、地域固有の生態系にふさわしい森林の再生にも寄与します。ただし、これらの在来種は商業的に流通していないため、私たちは種を採取し、自ら苗を育てる必要があります。

植樹地経過の様子

2024年9月6日/大阪府大阪市・岬町

木々は年に約1メートルほど成長しています。尾崎小学校では、5年が経過し、高さ6メートルほどに達した木も見られました。今年の猛暑と水不足の影響を受けたのか、何本かの木が枯れてしまいましたが、全体的には森が順調に形成され始めています。

大阪府大阪市立尾崎小学校植樹地



2024年の植樹本数 **24,946本**、参加人数 **1,892人**

設立から合計 625,610本の木を65,751人のボランティアと植えました。



日本から世界へ

世界27カ国から87名が参加しました。



G20との協力による国際シンポジウム開催のご報告

2024年10月10〜11日にかけて、横浜国立大学にて「宮脇の森と都市林再生」に関する国際シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、G20グローバル・ランド・イニシアティブ(GLI※)の協力のもと、世界27カ国から87名の参加者を迎え、総勢149名が集う国際的な会議となりました。

シンポジウムでは、GLIディレクターのムラリー・トゥンマルクディ氏が、急速な都市化の中で自然と子どもたちを再び結びつけることの重要性を強調し、『宮脇の森』を活用した持続可能な環境教育の可能性について紹介しました。この取り組みは、地域の環境保全や持続可能な発展に貢献するだけでなく、未来を担う世代への教育にも大きな可能性を示しています。

また、このシンポジウムを契機に、日本国内の教育機関における『宮脇の森』づくりがさらに推進されることが期待されています。学校や地域社会が協力し、子どもたちに自然とのつながりを取り戻す場を提供することは、次世代に持続可能な社会を引き継ぐための重要なステップになると話し合われました。私たちは、今回の成果を基に、災害時に広域避難場所として指定されることが多い国内の教育施設への森づくりの普及にも尽力してまいります。

『宮脇の森』とは:当財団が進める、限りなく自然林に近い森づくりのことを、海外では『宮脇の森』(Miyawaki Forests)として紹介されるようになってきています。



※GLIとは、人間活動によって荒廃した土地を再生し、持続可能な土地利用や森林再生を通じて、地球規模での環境保全と社会経済の発展を目指す国際的な取り組みです。



写真: Angelina Lee

津波防災の森づくりを進める、南相馬市長も登壇していただきました。

環境保全林の育成と 日本製鉄の森づくり

— 宮脇方式のはじまりと発展 —

植生学者 鈴木伸一

IGES国際生態学センターセンター長。
鎮守の森のプロジェクト技術部会長。
宮脇昭先生の指導を受け、その理念と
手法を学びました。



はじめに

私ども公益財団法人鎮守の森のプロジェクトは、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う東日本大震災をきっかけとして設立されました。巨大地震と津波による被害と22,000人以上の方々が犠牲になられたことは、まだ記憶に新しいところです。

太平洋側の海岸線には、防潮・防風・防砂の目的で発達したクロマツやアカマツの海岸林が配置されていましたが、津波によってなぎ倒され居住地は破壊されました。それらの海岸林が津波に対する効果がなかったわけではありません。それらがなければもっと甚大な被害が生じていたでしょう。マツたちは津波に^{あらが}抗って、幹が折れ、倒伏・根がえり、潮で枯死するなど、身を呈して頑張ってくれました。当時のニュースでは、マツの幹にしがみついて津波から身を守った人の映像もありました。当時の海岸林は与えられた役割を果たしたのです。

巨大なコンクリートの防潮堤をも破壊した大津波は、海岸林を破壊しましたが、樹種や植え方の工夫によって、より津波に強い防潮林をつくることができると私たちは考えています。その取り組みの一環が以下にご紹介する樹林の育成です。すなわち、その土地本来の自然林構成種の苗から森を育成す

る方法で、成長した森は津波から身を守る命の森であり、災害や環境保全効果の高い樹林です。この環境保全林は、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生が提唱し『ふるさとの森』とも呼ばれています。50年以上にわたって国内約900カ所、海外では東南アジア、インド、チリ、中国など300カ所あまりで造成が行われ、現在では高さ20m以上にも成長している例も少なくありません。

このような環境保全林の造成方法は、今では『宮脇方式』(Miyawaki method)と呼ばれ、海外では『宮脇の森』(Miyawaki Forests)として紹介されるようになってきています。

本稿は、約50年間におよぶ宮脇の森のはじまりとその後の流れについてご紹介し、皆様の津波防潮林についてのより深いご理解にご案内するものです。



フランスパリでの宮脇の森づくり(2019年撮影)
写真: Enrico Fusto & Tomasz Lamartine

環境保全林と植生生態学

残念なことですが、宮脇昭先生は2021年7月に93歳で逝去され、宮脇方式について直接うかがうことはできませんが、これまでのご指導や著作などからご紹介したいと思います。環境保全林の歴史と発展に関するより詳しい情報は、宮脇先生が長らくセンター長を務められたIGES-国際生態学センターの「照葉樹環境保全林の研究小史」(原田・鈴木2021)をご参照ください。(P9のQRコードAからご参照)

植生生態学者である宮脇先生は、1960年代後半から精力的に日本国内各地の植生調査を進められ、その報告書や論文には調査結果に加えて、応用研究として環境保全林の研究や造成の提案がなされてい



ます。1968年には「藤沢市西部開発区域の植物社会学的研究」の中で、現地植生調査に基づいた「ふるさとの森復元への緑化計画」が提案され、また1974年には、「学校環境保全林形成のための植物社会学的考察:全国158校の現地植生調査に基づいて」をまとめ、1976年には実践的に横浜国立大学構内の環境保全林の植栽を行っています。この横浜国大の森は、現在では20mを超える常緑広葉樹林に発達して森に囲まれたキャンパスを創出し、環境省の自然共生サイトにも認定されています。

宮脇方式の理念は、その土地本来の自然植生(潜在自然植生)を判定し、その構成種を植栽して限り



横浜国立大学の森。植樹から48年経過(2024撮影)
写真: Angelina Lee

なく自然林に準ずる森を創生することであり、その方法は通常の植林や人工林とは大きく異なっています。様々なノウハウがありますが、その方法を簡潔にまとめた紹介(鈴木2022)をご参照ください。(P9のQRコードBからご参照)

日本製鉄九州製鉄所大分地区の『ふるさとの森』-環境保全林の原点-

宮脇方式のはじまりの初期に実施された、工場緑化の実践活動の例として、1972年に開始され現在も継続されている、新日本製鉄大分製鉄所(現在の日本製鉄九州製鉄所大分地区)の『郷土の森』の育成があります。この森づくりが現在の「宮脇方式」の礎といえるものです。現在も使われている「ふるさとの森」という呼称は、当初から宮脇先生が提唱し、工場用地以外にも環境整備や緑化の一環として各地に普及して行きます。

私たちは今年(2024年)4月にこの森を見学し、林内の観察もさせていただきました。この郷土の森は、別府湾に注ぐ大分川と乙津川の河口埋立地に立

Tabella 1 植生調査(アウナー)の一例

Name d. Geotibch. カゴノキ-ホルトノキ群落	
Aufn. Nr. 65 Dat. 23. 5. 71 Ort. 湊区八幡宮	
Aufn. von K.F. u. K.L.	
H. 20 m 85 %	
S. 12 m 40 %	
S. 3 m 40 %	
M. 0.6 m 40 %	
Höhe u. M.	
10 x 20 m	
Mikrorelief u. Boden	
Artenzahl 51 Art	
B. 44.1	ナハメクサキ
21.1	ナハメクサキ
21.2	ナハメクサキ
21.3	ナハメクサキ
21.4	ナハメクサキ
21.5	ナハメクサキ
21.6	ナハメクサキ
21.7	ナハメクサキ
21.8	ナハメクサキ
21.9	ナハメクサキ
21.10	ナハメクサキ
21.11	ナハメクサキ
21.12	ナハメクサキ
21.13	ナハメクサキ
21.14	ナハメクサキ
21.15	ナハメクサキ
21.16	ナハメクサキ
21.17	ナハメクサキ
21.18	ナハメクサキ
21.19	ナハメクサキ
21.20	ナハメクサキ
21.21	ナハメクサキ
21.22	ナハメクサキ
21.23	ナハメクサキ
21.24	ナハメクサキ
21.25	ナハメクサキ
21.26	ナハメクサキ
21.27	ナハメクサキ
21.28	ナハメクサキ
21.29	ナハメクサキ
21.30	ナハメクサキ
21.31	ナハメクサキ
21.32	ナハメクサキ
21.33	ナハメクサキ
21.34	ナハメクサキ
21.35	ナハメクサキ
21.36	ナハメクサキ
21.37	ナハメクサキ
21.38	ナハメクサキ
21.39	ナハメクサキ
21.40	ナハメクサキ
21.41	ナハメクサキ
21.42	ナハメクサキ
21.43	ナハメクサキ
21.44	ナハメクサキ
21.45	ナハメクサキ
21.46	ナハメクサキ
21.47	ナハメクサキ
21.48	ナハメクサキ
21.49	ナハメクサキ
21.50	ナハメクサキ
21.51	ナハメクサキ
21.52	ナハメクサキ
21.53	ナハメクサキ
21.54	ナハメクサキ
21.55	ナハメクサキ
21.56	ナハメクサキ
21.57	ナハメクサキ
21.58	ナハメクサキ
21.59	ナハメクサキ
21.60	ナハメクサキ
21.61	ナハメクサキ
21.62	ナハメクサキ
21.63	ナハメクサキ
21.64	ナハメクサキ
21.65	ナハメクサキ
21.66	ナハメクサキ
21.67	ナハメクサキ
21.68	ナハメクサキ
21.69	ナハメクサキ
21.70	ナハメクサキ
21.71	ナハメクサキ
21.72	ナハメクサキ
21.73	ナハメクサキ
21.74	ナハメクサキ
21.75	ナハメクサキ
21.76	ナハメクサキ
21.77	ナハメクサキ
21.78	ナハメクサキ
21.79	ナハメクサキ
21.80	ナハメクサキ
21.81	ナハメクサキ
21.82	ナハメクサキ
21.83	ナハメクサキ
21.84	ナハメクサキ
21.85	ナハメクサキ
21.86	ナハメクサキ
21.87	ナハメクサキ
21.88	ナハメクサキ
21.89	ナハメクサキ
21.90	ナハメクサキ
21.91	ナハメクサキ
21.92	ナハメクサキ
21.93	ナハメクサキ
21.94	ナハメクサキ
21.95	ナハメクサキ
21.96	ナハメクサキ
21.97	ナハメクサキ
21.98	ナハメクサキ
21.99	ナハメクサキ
21.100	ナハメクサキ

図1 植栽に先駆けて行われた植生調査の一例。湊区八幡宮の社叢林

地した製鉄所の内陸側に創生された環境保全林で、植栽から50年以上を経た現在では樹高20m以上に達し、明治神宮の森を彷彿とさせる大きな森に成長しています。当時は工場緑化といえ

ば、根巻きした成木を広い間隔で移植して支柱を添

の鎮守の森などまとまった森林の植生調査から潜在自然植生を判定し、その構成種を現地採取し苗木に仕立て、密植するという基本的なノウハウは当初からのものです。

当初の植栽樹種は、現在と比べると種数が少なく、例えば1976年植栽の横浜国立大学キャンパスの例では、タブノキ、アラカシ、シラカシおよびスダジイのほか、潜在自然植生構成種ではないクスノキを含め、高木林構成種のみ5種だけでした(藤間ほか, 1994)が、現在行われている植樹活動では低木類も利用され、30~40種もの樹種が植栽されています。また、日本製鉄郷土の森は、苗木は列状に配列されていますが、現在の宮脇方式ではできるだけ自然の状態になるようランダムに植えることが推奨されています(図3)。そのほか、植栽後の稲わらマルチング、ポット苗育成技術と生産体制など技術・組織的側面の向上など、宮脇方式は50年前と比べて大きく発展してきています。また、それらと並行して、地球環境問題、環境保全、生物多様性、災害防止あるいはCO₂問題などを背景に、森づくりに賛同する海外を含めた多くの方々に支えられ、世界的にも広がりを見せています。

植生生態学の研究成果としての環境保全林

以上のように、宮脇方式は卓越した森づくり方法として認められてきていますが、忘れてはならないことは、同方式が植生生態学的な現地植生調査に基



図2 図1. 新日本製鉄大分製鉄所(当時)の1972年の植栽直後(写真左)とその50年後(2022年撮影)の日本製鉄の「郷土の森」(写真右)。植栽後50年を経て樹高20m以上の発達した常緑広葉樹林に成長している。



図3 日本製鉄「郷土の森」の林内。列状に植栽されているが、実生が育ち始めている。

づいた地道な研究成果の延長線にあるということです。これまで宮脇先生が各地で蓄積されてきた膨大な植生調査資料の解析結果に基づいて、対象植栽地の立地環境に適した植栽適正樹種を選定し、種ごとに植栽割合を算定した結果が環境保全林という形で反映されているものです。自分の好きな木を勝手に植えればよいものではありません。森づくりの理念に賛同し実践する私たちは、ただ木を植えるだけではなく、なぜその木を植えるのか、どういう理由でその樹種が選定されているのかをよく理解した上で植樹に参加したいものです。

私は植生学を学びたくて宮脇研究室に入っていたきましたが、先生から具体的な植生学の講義を受けたことはありません。研究室ではゼミや座学があるわけではなく、野外で日々行われる植生調査が授業といえるものでした。野外での調査・観察とデータ整理の繰り返しによって自然を見る目が醸成され、植物社会の姿や仕組みが徐々に理解できるようになってきたと感じています。また、環境保全林について興味があったわけではなく、研究室に入ってからも宮脇先生がそのようなことに取り組んでいらっしやることすら知らない状態でした。ある日、宮脇先生のお供で拝聴した先生の講演が植生学の研究ではなく、宮脇方式の環境保全林でしたので戸惑いました。その後何度も聞くことになる講演は、ほとんどが環境保全林の実践例でした。しかもいつも一言一句ほぼおなじ内容で、話の順番とセリフなど覚えてしまうほどに...。潜在自然植生については、講演を通じて聴く機会が多かったです。さすがにそれだけ何度も聞かされると、環境保全林

の大切さについても次第に植生学の研究成果や理論と結びつけて考えるようになり、皆様にもお話することができているわけです。

今後に向けて

当財団では、東北の津波被災地での植樹だけでなく、宮脇方式についても皆様にご紹介いただき目的で、ポット苗の栽培方法と作成手順に関する講習会を開催しています。その内容は財団ホームページにて紹介されていますので、ご興味のある方は是非ご覧ください。ポット苗は、森の構成種であり将来の発達した森を担う最も重要な存在です。ポットで育てた苗であればなんでもよいというものではなく、苗木の良し悪しが植栽後の成長に大きく関係してきます。本格的宮脇方式の修得のためには、環境保全林の理論を植生生態学的研究成果として理解した次は、植樹の中心であるポット苗育成のためのプロの技を体験、会得することもノウハウの一環として重要です。興味のある方のご参加をお待ちしています。



著者: 鈴木伸一 / 植生学者。IGES国際生態学センターセンター長。博士(学術)。1958年群馬県生まれ。明治大学農学部卒業後、横浜国立大学環境科学研究センター植生学研究室にて、宮脇先生に師事、薫陶を受ける。群馬県立高等学校生物教諭、IGES国際生態学センター研究員、東京農業大学短期大学部教授・同大地域環境科学部教授を経て2024年7月より現職。環境省植生図凡例検討委員、経産省環境審査会顧問。群馬県尾瀬保護専門委員。共著に『日本植生誌第3~10巻』(至文堂、1983~1989)、『植生景観とその管理』(東京農大出版会、2014年)、『環境を守る森を調べる』(海青社、2018年)など。

引用・参考文献 / 原田洋・鈴木邦雄(2021) 照葉樹環境保全林の研究小史。JISE REPORT, 6:1-6. (QRコードA) / 宮脇昭・藤原一絵(1968) 藤沢市西部開発区域の植物社会学的研究, 44pp. 藤沢市。 / 宮脇昭・佐々木幸・奥田重俊・原田 洋・藤原一絵・鈴木邦雄・堀田一弘, 1974. 学校環境保全林形成のための植物社会学的考察。横浜国立大学環境科学研究センター。 / 鈴木伸一(2022) 都市部に森を再生: 限りなく自然に近い環境保全林を育てる。(QRコードB) / 藤間照子・石井 茂・藤原一絵, 1994. 横浜国立大学キャンパスの現存植生。横浜国立大学環境科学研究センター紀要, 20:31-96.



こんな応援をしていただきました

鎮守の森のプロジェクトでは、様々な形でご支援いただき、活動を広げています。今年も、長年ご支援いただいている北海道礼文町の桃岩荘ユースホステルと、当財団初のクラウドファンディングについてご紹介します。

※順不同・敬称略



桃岩荘ユースホステル(北海道礼文町)

桃岩荘ユースホステル(北海道礼文町)は、礼文島の美しい自然を愛する多くの方々が集う心温まる宿泊施設です。島の絶景を楽しむハイカーや自然愛好家、旅人たちが全国から訪れ、心のこもったおもてなしと宿泊者同士の交流を通して、深い絆が生まれる場となっています。

2013年から「鎮守の森のプロジェクト」にご支援いただき、宿泊施設内には募金箱を設置し、宿泊者の皆様が支援の気持ちを募金という形で寄せてくださっています。

この募金活動は、桃岩荘スタッフの皆さまによる丁寧なご案内と、宿泊者との温かな交流の中で行われ、鎮守の森づくりへの理解と共感を深めるきっかけとなっています。長きにわたる継続的なご支援と、宿泊者の皆さまへ活動を広めていただいていることに、心より感謝申し上げます。



1967年に開設され、50年以上も続く歴史ある宿泊施設です。毎年6月1日～9月30日の営業。
住所：北海道礼文郡礼文町香深
アクセス：稚内よりハートランドフェリー2時間、香深下船。徒歩4km60分または送迎車にて15分。

CAMPFIRE



クラウドファンディングで広がった支援の輪

鎮守の森のプロジェクトでは、今年初めてクラウドファンディングに挑戦し、総額1,313,000円のご支援を、87人の方々にいただきました。この取り組みはCAMPFIRE(キャンプファイヤー)を通じて実施され、賛同してくださった皆さまのおかげで目標金額を達成することができました。プロジェクトページでは、活動の背景や目的を詳しく説明し、多くの方々に「鎮守の森＝防災の森」の重要性をご理解いただく機会となりました。

集まった支援金は、宮脇方式による植樹活動を全国に広げるために活用され、地域の防災力向上や生物多様性の保全に役立てられます。今回のクラウドファンディングを通じて、従来の寄付方法に加え、より多くの年代や地域の方々が気軽にプロジェクトに参加し、共感を寄せていただける新たな支援の形が生まれました。

今回のクラウドファンディングでは、「気軽に支援できる少額コース」や「実用的なエコバッグ」、限定書籍『九千年の森をつくろう！日本から世界へ』が人気を集めました。ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

多大なご支援をいただいている企業・団体・個人の方々

(2023年7月1日～2024年6月30日)

 AIG 損保 AIG損害保険株式会社	 AEON Environmental Foundation 公益財団法人イオン環境財団	 「生きる」を創る。 Aflac アフラック生命保険株式会社
 AGC株式会社	 パーカー・ハネフィン財団	 Challenging Tomorrow's Changes 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
三和グループ 社会貢献倶楽部	 MS&AD 三井住友海上あいおい生命 三井住友海上あいおい生命保険株式会社	 kanpane カンパネ株式会社

※順不同・敬称略

アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社 / 中島千代子 / 全国親師法縁(日蓮宗) / 宗教法人日蓮宗修昌山 法性寺 / 有限会社フィセル
 こだまクリニック 児玉 末 / 安藤商事株式会社 / 鈴木智子 / 渡辺正見 / 東京ロータリークラブ / 株式会社LOSA / 株式会社仙台銘板
 / 高山美紀 / 高山知子 / 島村楽器株式会社 / 株式会社マイクロ・テクニカ / 一家 恵理 / 加藤悦子 / 株式会社エムアイカード /
 能美防災株式会社 / ナカモリリツコ / 山形開発工業株式会社 / 株式会社ティーレックス / 株式会社ティエラコム / 仁科 潔 /
 クリスタ長堀会 / 藤倉コンポジット株式会社 / 宮崎朱美 / 重田美香 / 重田糾夫 / 田中洋子 / 小沼芳子 / 小林三雄 /
 株式会社トライメイト / 株式会社TSHホールディングス / 株式会社エムケイカンパニー / グリーンモンスター株式会社 ※順不同・敬称略

決算概要

(2023年7月1日～2024年6月30日)

[収入の部]			[支出の部]		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
寄付金収入	39,230	1,731件	事業費	82,262	
助成金収入	17,346	日本宝くじ協会、イオン環境財団 パーカー・ハネフィン財団	1. 森の防潮堤創造事業費	79,868	植樹祭、育樹祭他
雑収入	312	利息等	2. ポット苗育苗事業費	2,048	どんぐり採種・育苗講習会他
前年度繰越金	287,101	令和4年度より	3. 情報提供事業費	346	広報・宣伝費
収入合計(A)	343,989		管理費	2,067	事務経費他
			支出合計(B)	84,329	
			次年度繰越金(A-B)	259,660	